

1. 調査報告概要表

作成日 平成20年 7月23日

【評価実施概要】

事業所番号	2172000545
法人名	有限会社 ケア コスモス
事業所名	グループホーム ほのぼの2号館
所在地 (電話番号)	〒508-0203 岐阜県中津川市福岡3441番地1 (電話) 0573-72-3300
評価機関名	NPO法人 ぎふ住民福祉研究会
所在地	岐阜県羽島市竹鼻町狐穴719-1
訪問調査日	平成20年7月5日

【情報提供票より】(20年5月12日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 7 月 12 日
ユニット数	1 ユニット
職員数	9 人
利用定員数計	9 人
常勤	6 人
非常勤	3 人
常勤換算	7.4 人

(2) 建物概要

建物構造	木造瓦葺平屋 造り
	1階建ての 1階 部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有() 円	○ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	○ 有() 円	有りの場合 償却の有無	○ 有 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	200 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(5月12日現在)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名
要介護1	1 名	要介護2	1 名		
要介護3	5 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.0 歳	最低	74 歳	最高	100 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	丹羽内科ペインクリニック・赤坂歯科医院
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

中津川の山あいの自然の中に建つホームである。山林を切り開いて建てたことで人の気配が増えてホームを中心に明るい雰囲気が一帯に漂っている。ホームの代表は自らも住むことを考えて建てたホームであり、その思いが建物にもケアにもこめられていて、利用者を包み込む暖かさや親しみ易さを感じられる。ホームのケアの特徴は地域に溶け込んだ日常の暮らしであり、職員は気負ったところのない自然体で日々のケアを行っている。職員の前向きな姿勢がホーム全体に活気を与えている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価で指摘された事項について、職員全員で話し合って改善シートを作り、それぞれ担当を決めてこの一年間取り組み、改善されている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価を職員全員で取り組み、全員の意見が反映されるようまとめられている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は、民生委員、自治会役員、家族等で構成されている。推進会議のメンバーの意見や要望を聞き、職員で話し合い一つ一つ取り組んでいる。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>日頃から家族との関係を大切にしており、きめ細かいやりとりをしている。遠方の家族には、手紙や電話などで報告している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>周囲に住宅などが少ないことから難しい面もあるが、地元の産業祭に参加したり、早朝ボランティアに職員の方から出向いたりするなど、積極的に取り組んでいる。</p>

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスへ移行したことを踏まえ、職員全員で理念を再検討している。その結果「共に生きる・共に楽しむ」を新たに加え、地域を巻き込んだの活動を目指した内容となっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事務所に理念を掲げ、毎日のミーティングや月1回のカンファレンスの場で、常に理念に基づいた実践ができているかという振り返りがなされている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	常会(町内会)への参加、お祭りへの参加を始め、待つだけではなく、こちらから早朝ボランティアの掃除に出掛けたり、地域の仲間としてより良い関係が出来ている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価における要改善については職員全員で話し合い、それぞれ項目に担当者を決め、しっかりとした取り組みがなされている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、一方的な報告だけでなく、参加者に自由に発言してもらい易いような雰囲気作りをしている。出席者の意見要望については職員と話し合いの上、順次取り組み成果を上げている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	職員が、地域の認知症サポーター養成講座の講師や、まちづくり委員として活躍している。また、地域住民に認知症に対する理解を深めてもらい、協力を得られるよう働きかけている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	日頃から個々の家族とのきめ細かいやりとりを大切にしており、利用者の暮らしぶりもその都度伝えている。遠方の家族には、手紙や電話で報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、年3～4回ある家族会、運営推進会議などで家族の意見や要望を聞く機会を設けている。家族からの要望に応じて改善の取り組みが行われている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の退職、新規採用はあるが、毎日のミーティングで常に利用者への影響を減らすための話し合いが持たれており、大きな混乱は見られない。又同業者間の異動もあるが、日頃から交流があるため混乱は無い。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修にはできるだけ多くの人に参加してもらうようにしている。また、施設に管理栄養士を招き、利用者の食事作りについて勉強するなど、施設内研修も行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	中津川市のグループホーム協議会を通じて、日常的に他のグループホームとの交流や情報交換が行われ、お互いに勉強会へ参加するなど、サービスの質の向上を目指し取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者、家族、スタッフが、馴染みの関係をしっかり作れるかどうかを見極め納得した上で入居できるように体験入居(1~3ヶ月)してもらい、話し合いを持ちながら入居してもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者を一方的に支援される側の立場に置かず、雑巾がけ、モップかけなど自分でやれることはやってもらうようにしている。時には人生の先輩である利用者に教えてもらいながら、お互いが協働しながら日々過ごしている。		
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者一人ひとりの思いや意向に耳を傾け、利用者個々に作られた「気づきノート」にどんな小さなことも記録し、活用されている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアマネージャーが中心となり、家族、職員等で話し合い介護計画を作成している。中津川市がセンター方式の記録で統一することを進めており、ホームの職員全員が研修に参加する予定で前向きに取り組んでいる。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	カンファレンスは月1回開き、利用者のケアについて活発な意見交換がなされている。職員の自発的な気づきを期待して進められている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療機関の受診は状況に応じてホームで対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の医師が月2回往診している。かかりつけ医ともホームと受診に付き添った家族から情報を詳しく聞き、必要に応じて連絡を取って連携を図っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期の対応は家族や医師等と相談しながら進めている。また、職員もミーティングでその都度変化を把握しながらケアをする体制ができている。方針やマニュアルの明文化には至っていない。	○	終末期に対する取り組みは前向きであり、家族と話し合いを重ねていることは評価できる。さらに利用時から家族との同意、調整や関係職種、職員間の話し合いを円滑にするためにも明文化した方針、マニュアルの作成を希望したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は穏やかに利用者者と接している。記録は独立した事務所で管理して、個人情報の取り扱いに配慮がなされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一応生活スケジュールは計画してあるが、一人ひとりの1日の過ごし方に合わせて過ごせるようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理の下準備や後片付けを利用者に手伝ってもらっている。利用者の希望も聞いて献立に組み込んでいる。訪問時の昼食はこの地域の郷土食である、ほう葉寿司であったが職員と利用者のはずむ会話の中皆、完食であった。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2～3回の入浴であるが利用者の希望に応じて柔軟に対応している。一例として、妻が訪問したときに利用者の希望と一緒に入浴してもらった事もある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴や能力、好きなことなどはホーム利用時のアセスメントでも情報を得ている。その他日々のケア時や近所の人の訪問時にも把握して日々の過ごし方に活かしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームは傾斜面に建っているため、散歩でも歩くことが困難な方がほとんどで外出はあまりできない。ホームの前にある広い駐車場で散歩したり、週1～2回のドライブをする等屋内にこもりきりにならないよう工夫している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の性格や行動を把握するまでの間は鍵をかけ、その後は対応できている。そのため基本的には日中、玄関の鍵はかけていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホーム内で自主避難訓練を月1回実施している。また、地域との話し合いでホームの駐車場が地域の避難場所となっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスについては栄養士に相談している。食事摂取量や水分摂取量は記録し、把握した上で支援を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	十二分すぎるくらいの風が吹き抜ける明るく広い居間であり、天井は5メートル程あって開放感がある。2つのゆったりとした応接セットが配置され、落ち着きのある、くつろげる場となっている。季節の花が飾られ、近くの川からすくってきたメダカガラス鉢が置かれている。利用者が日中は居室より居間にいることが多いというのが納得できる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	日当たりのよい居室で、出入り口は開放され、暖簾が室内のプライバシーを保っている。使い慣れた馴染みのものも置いてあり、それぞれの利用者が居心地よく暮らせる空間となっている。		